

第5次 飯田市立図書館サービス計画

計画期間 令和7(2025)年度～令和10(2028)年度

飯田市

中央図書館

目 次

第1章 飯田市立図書館サービス計画の策定について	1
I 計画策定の趣旨	
II 図書館を取り巻く状況	
III 計画の位置付け	
IV 計画期間	
第2章 飯田市立図書館サービス計画の基本方針	2
第3章 これまでの取組の成果と課題	3
I 第1次図書館サービス計画（平成19年度～23年度）の主な成果	
II 第2次図書館サービス計画（平成24年度～平成28年度）の主な成果と課題	
III 第3次図書館サービス計画（平成29年度～令和2年度）の主な成果と課題	
IV 第4次図書館サービス計画（令和3年～令和6年）の主な成果と課題	
(1) 取組と成果	
(2) 第4次計画期間を振り返っての課題	
第4章 第5次飯田市立図書館サービス計画の取組方針	6
第5章 第5次飯田市立図書館サービス計画の具体的な取組	6
I 図書・資料・情報提供を充実させます	6
II 学び合いにより人と人がつながり、 読書や学びが広がる場づくりに取り組みます	9
III こどもの読書活動を推進します	10
IV 身近に使える分館の充実を図ります	12
V 安全で安心して使える施設を整えます	14
VI 取組別進捗状況確認指標	15
資料編	16

第1章 飯田市立図書館サービス計画の策定について

I 計画策定の趣旨

飯田市立図書館では、「暮らしと仕事と地域に役立つ図書館」「“よむとす”を合言葉とした市民協働の読書活動推進」を運営基本方針として、貸出・予約・調べもの支援（レファレンス）に力を入れてきました。また蓄積してきた資料を活用した学びの機会を提供することで、市民の読書や研究活動を支援し、人間形成や自己確立の場であるとともに地域を支える情報拠点となることを目指してサービスの提供を行ってきました。

平成16年「公立図書館の任務と目標」改訂や、平成18年「これからの図書館像―地域を支える情報拠点を目指して―（報告）」、平成20年図書館法改正及び平成24年「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」改正等の国の動向や、図書館を取り巻く状況の変化を踏まえ、飯田市では平成19年度～23年度を計画期間とする「（第1次）飯田市立図書館サービス計画」、平成24年度～28年度を計画期間とする「（第2次）飯田市立図書館サービス計画」、平成29年度～令和2年度を計画期間とする「（第3次）飯田市立図書館サービス計画」、令和3年度～令和6年度を計画期間とする「第4次飯田市立図書館サービス計画」により、図書館サービスの向上に取り組んできました。

令和6年度末に現在の計画が終了を迎えるにあたり、現行の計画で目標とした図書館サービスの達成状況や課題、利用者や地域のニーズ、図書館を取り巻く状況を考慮しながら、今後の飯田市立図書館のサービスの方向性を確認し、今後4年間の具体的な取組を定めます。

II 図書館を取り巻く状況

令和2年度からの新型コロナウイルス感染の拡大は、人々のライフスタイルや働き方に大きな影響を与えました。また価値観も多様となり、暮らしや社会の在り方への意識も変わってきています。

感染拡大防止のための行動制限により、図書館の利用や地域の活動も減少しました。さらに、デジタルメディアが急速に普及し、SNSや動画の視聴時間が増加するなど市民生活の変化もあり、全国的にも、1カ月に1冊も本を読まない人が62%以上（文化庁：2023年度「国語に関する世論調査」）となっています。

またデジタル環境の変化は、親子のふれあいの時間や家庭でのこどもの読書時間にも影響を与えていることが考えられます。

郷土研究においては、研究者の高齢化などもあり、伊那谷の自然と文化に親しみ地域資源を活用して学習・研究し、地域の魅力を発信する人が減少している状況があります。

地域の情勢の変化や、社会経済・世界情勢・地球環境等の激しい変化があり、対応する学びや情報取得への要望が高まっていることが考えられます。

Ⅲ 計画の位置付け

「飯田市立図書館サービス計画（以下「本計画」という。）」は、「いいだ未来デザイン 2028（飯田市総合計画）」と教育分野計画でもある「第2次飯田市教育振興基本計画」を上位計画とし、これらの社会教育分野の個別計画として位置付けられるものです。

Ⅳ 計画期間

本計画は、令和7（2025）年度から令和10（2028）年度までの4年間を計画期間とします。この計画期間は、「いいだ未来デザイン 2028 後期計画」及び「第2次教育振興基本計画後期の取組」と同一の計画期間として設定しています。

なお、一年ごとに取組の実施状況について検証・評価を行い、必要に応じて見直しを行います。

計画期間を図に示すと以下のとおりとなります。

いいだ未来デザイン 2028		
前期（4年間） H29（2017）～R2（2020）	中期（4年間） R3（2021）～R6（2024）	後期（4年間） R7（2025）～R10（2028）

第2次飯田市教育振興基本計画		
前期（4年間） H29（2017）～R2（2020）	中期（4年間） R3（2021）～R6（2024）	後期（4年間） R7（2025）～R10（2028）

第3次飯田市立図書館 サービス計画 H29（2017）～R2（2020）	第4次飯田市立図書館 サービス計画 R3（2021）～R6（2024）	第5次飯田市立図書館 サービス計画 R7（2025）～R10（2028）
--	---	--

第2章 飯田市立図書館サービス計画の基本方針

読書は自己を形成し、人生を豊かにしてくれます。読書により生きる喜びと夢を育むことは、これからの飯田を支える人づくりのために大切なことです。図書館は、生涯にわたって一人一人が読みたい本や知りたい情報を得て主体的に学び、自分や地域にとって大切なものを見つけ、実践することができることを目指して取り組みます。

またこの地域では、読書により学ぶこと、また自分だけでなくみんなと読み学び実践することが活発に行われてきました。仲間と一緒に自分たちの力で地域の学びやこどもたちの読書の場を作ってきました。これからも、「よむとす」を合言葉に、こどもから高齢者までが生涯を通じて読書に親しみ、人とつながり生き生きと学ぶことができるよう、市民と図書館が力を合わせて読書活動を推進します。

飯田市立図書館は、次の三つを図書館サービス計画の基本方針として取り組みます。

- ◇ 一人一人の読書と学びを支えます。
- ◇ 読書を通じた交流やつながりを広げます。
- ◇ 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、現在から将来にわたって地域の学びに生かします。

第3章 これまでの取組の成果と課題

飯田市立図書館では、「だれでも・どこでも・いつでも・どんなことでも」利用できる市民の図書館として、市民があらゆる種類の知識や情報を入手できる機関となるよう、求められる本や資料への要望には、貸出や予約、調べもの支援（レファレンス）等により徹底して応えるという姿勢でサービスを行ってきました。開館以来蓄積してきた郷土資料は全国に誇る飯田市の財産となり、市民や研究者に提供し続けています。またこどもの心の成長に読書は欠くべからざるものとして子どもへのサービスにも力を入れてきました。市内全域に配置している分館による地域に密着した読書推進は、飯田市の図書館サービスの大きな特徴となっています。

社会や図書館を取り巻く状況が変化する中、期間を定め、図書館利用や、社会、地域の状況を鑑みてサービス計画を策定してきました。

I 第1次図書館サービス計画（平成19年度～23年度）の主な成果

開館時間の延長や定住自立圏形成協定による南信州図書館ネットワークの構築により利便性が向上し、図書予約数も飛躍的に伸びました。また仕事に役立つ社会、経済、産業関連の実用書等の充実、地域の課題を取り上げた講座の開催などビジネス支援サービスへの取組を始め、新たな利用者を増やしてきました。

II 第2次図書館サービス計画（平成24年度～平成28年度）の主な成果と課題

第2次計画においては、郷土新聞・雑誌等のデジタル化とデータベース化により閲覧が増加し、図書館分館、美術博物館、歴史研究所の蔵書を図書館システムに搭載したことで各館の蔵書が有効に利用されるようになるなどの成果がありました。また「本と人が出会い、学びが広がる図書館」を目指し、市民と協働した講座開催や資料展示等学びの機会の提供にも重点的に取り組み、参加者が増えました。

しかしながら利用統計を見ると、のべ利用者数は1年間でおおよそ21万人であるものの利用登録者数は飯田市民全体の2割強であり、多くの市民が図書館を利用していない実態がありました。年代別の利用分析では、50代以上の利用は増加していましたが、子どもを含め40代までの利用が減少傾向にありました。

また市民へのアンケート結果では、生活が忙しいため来館できない方が多いこと、蔵書の充実が求められていること、レファレンスや情報提供機能について知らない方が多いこと、高齢者の読書環境整備への要望が多いことなどがわかりました。

Ⅲ 第3次図書館サービス計画（平成29年度～令和2年度）の主な成果と課題

第2次計画の課題を受けて、市内全域で誰もが利用しやすい図書館、資料提供の充実、年代に応じた読書活動推進を目指して取り組みました。

分館の予約推進により分館受け取り予約数が飛躍的に増加しました。また、ホームページの更新により、郷土情報の発信や図書館の貴重資料の検索がしやすくなるなど利便性が向上したことや、ボランティアや市民団体との協働により読書支援や学びの機会を提供し、読書会や講座等の参加者が拡大したなどの成果がありました。こどもの読書活動推進については、小中学生の読書体験の充実に向けて学校図書館担当者と情報共有や連携強化を図りました。

一方、全市の利用登録者数は減少傾向にあり、郷土資料の利用減少や地域の読書会の減少など大切にしてきた地域の学びや継続して行われてきた活動が減少してきていることが課題となりました。また高校生から40歳代までの図書館利用が少ない現状があり、若い世代の利用促進は継続的な課題となっています。

Ⅳ 第4次図書館サービス計画（令和3年度～令和6年度）の主な成果と課題

第3次サービス計画の課題や取り巻く環境の変化を受け、情報提供機能の充実、こどもの発達段階に応じた継続的な読書活動支援、若い世代の利用促進、身近な図書館としての分館の蔵書整備、読書を通じた学び合いの場づくりを重点として取り組むこととしました。

(1) 取組と成果

令和3年度当初から令和5年5月上旬までは、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた行動制限により、市民の図書館利用や学びの機会提供、こどもたちへの働きかけに大きな影響を受けました。一方で、人が集まる行事が行えなくなったことから、事業の目的を見返しつつ継続的な来館につながる新たな取組を実施しました。

令和3年度には、幼児期の家庭での親子のふれあいと絵本体験の充実を目的とした4歳児（年中児）への絵本プレゼントを開始し、あわせて定期的に家庭へ絵本が届くための取組を進めました。令和4年度実施したアンケートにより、幼児期の読書体験の充実が図られていることが確認できました。

令和4年度には、小中学生の読書活動推進に向けて、新たな体制で小中学校図書館との連携にも取り組み始めました。また従来からの課題である若い世代の読書活動推進に向けて、飯田駅前の「ムトスぷらざ」内に飯田駅前図書館を開館し、高校生が読書に親しみ交流しあう場となることを目指して取り組んでいます。

令和5年度には、市民の皆さんや地域の研究団体と協働した読書会や講座などコロナ禍で制限されていた人と関わりながら学ぶ機会を積極的に提供し、交流と学びが深まりました。また、これまでの取組評価と次期サービス計画策定のために図書館アンケートを実施しました。長野県と県内市町村で協働運営する電子図書館「デジとしょ信州」により、電子書籍を利用することもできるようになりました。

中央図書館、上郷図書館の改修工事、施設修繕により、施設・設備の安全性と快適性が向上しました。また、環境に配慮した施設整備により、ゼロ・カーボンの取組の推進が図られました。

(2) 第4次計画期間を振り返っての課題

- ① コロナ禍の影響により低下していた利用が徐々に回復しつつあるものの、図書館を利用される方とされない方の差が開いている状況は継続的な課題となっています。また、図書館アンケートの結果では、図書館を利用しない方の「利用しない理由」がほとんどの年代で「行く目的がない」が上位でした。

調べものにインターネットを使用する方が増える一方で、図書館への資料や情報への要求は多様化・専門化しており、多様化・専門化する調査等への司書のさらなる支援が必要です。図書館アンケートでは、調べもの支援（レファレンス）などについては、使用している多くの方が満足している一方、使い方がわからない方、サービス自体を知らない方も少なくありませんでした。

より多くの方に利用していただくために、図書館は読みたい本を得られる場所であるだけでなく、疑問や課題を解決するために必要な情報を得られる場であることの認知度を高めるとともに、読書への興味・関心を広げることや、気軽に来館していただくための取組が必要です。

- ② 児童生徒の自発的な読書に向けて学校図書館と連携して取組を実施しましたが、日常的に読書を行っている児童生徒の割合は減少しています。読書の時間が取れないことや、自分で文字の本を読むことへの移行がうまくできなかったり、長い物語や説明的な文章を読む意欲や力がついていなかったりということが考えられます。こどもの状況を把握して、関係機関やこどもに関わる人たちが連携して取り組む必要があります。
- ③ 郷土資料の利用の減少や高齢化による読書会の減少など大切にしてきた地域の学びや、市民運営による読書交流活動が減少傾向にあります。学習や活動への意欲や関心が湧くような働きかけが必要です。

参考資料

- ・「貸出冊数の推移」「貸出利用者数の推移」 資料編に掲載
- ・第4次飯田市立図書館サービス計画 取組別成果指標 資料編に掲載
- ・令和5年度 飯田市立図書館アンケート調査結果の概要 資料編に掲載
- ・令和4年度～令和6年度 飯田市立図書館 図書館概要 （飯田市立図書館ウェブサイト掲載）
- ・令和5年度 飯田市立図書館アンケート調査結果 （飯田市立図書館ウェブサイト掲載）
- ・令和4年度 はじめまして絵本アンケート結果 （飯田市立図書館ウェブサイト掲載）
- ・令和4年度 おともだち絵本アンケート結果 （飯田市立図書館ウェブサイト掲載）

第4章 第5次飯田市立図書館サービス計画の取組方針

第4次計画の課題と現在の図書館を取り巻く状況を踏まえ、第5次計画の取組を定めます。図書館の基本的な業務を大切にしながら、今後4年間に重点的に取り組む内容を記載したサービス計画とします。

- 誰もが、知りたいことや学びたいことがあるとき自分で学ぶことができるよう、図書館が読みたい本を得られる場所であるとともに、生活や仕事、地域の課題解決に役立つ情報を得る場所となるための蔵書の充実やサービスの向上を目指します。調べもの支援（レファレンス）の機能強化と、周知や利用促進の取組を実施します。
 - 誰でも気軽に立ち寄れる居場所となることを目指します。
 - 市民の皆さんと一緒に「行ってみたくなる図書館」「読みたいくなる」「やってみたくなる」を目指し、読書を通じた交流の機会づくりや、地域の魅力の体験や発信する機会づくりを行います。学習交流や市民活動の場となることを目指します。
 - 子どもが自発的に読書を行えるようにするために、発達に沿って関係機関と連携しながら、読書が楽しいと感じることができる体験の充実を図ります。乳幼児・高校生の読書活動の推進については現在の取組を継続し、小中学生の自発的な読書に向けての取組を重点とし、学校図書館と連携して取り組みます。
- また、関係部署と連携し継続して取り組むためのこども読書活動推進計画を策定します。

第5章 第5次飯田市立図書館サービス計画の具体的な取組

I 図書・資料・情報提供を充実させます

ライフステージや多様なニーズに応じた資料や情報を収集・提供し、市民の主体的な読書や課題解決を支援します。

1 現状の評価・今後の方向性

図書館の資料提供による知る権利の保障は、市民の自由な思考と判断を生み、自立を支えます。第4次サービス計画では、市内各図書館が分担して幅広い分野の図書を収集して、蔵書の充実を図り、市民のニーズに応じてきました。しかし、コロナ禍以降、市民のライフスタイルは変化し、情報に対するニーズはますます多様化・細分化しており、デジタル化が進んだために調べ物はインターネットで済ませる方も増加しています。図書館アンケートから、「図書館に行く目的がない」という方が一定数いることも明らかになりました。図書館では、ニーズに対応する蔵書を整備することに加えて、「本を読む楽しみ」「知らないことを知る楽しみ」や本を読むことの意義を伝え続けていく必要があります。

第5次サービス計画では、引き続き来館された方誰もが読みたい本と出合えるように蔵書を充実させ、一人一人に寄り添った対応を行い図書を手渡していくとともに、本や図書館の魅力発信に努めます。

また、図書館は生活や仕事、地域の課題解決に役立つ情報を得られる場所でもあります。利用者自身が自分で情報を探す方法を周知する取組や、市民が知りたい情報と出合えることを司書が手助けする調べもの支援（レファレンス）に力を入れていきます。

そして、図書館に市民誰もが気軽に立ち寄り利用できる場所となるための取組を行います。

図書や情報を得られる「役に立つ図書館」、「親しみやすい図書館」、「行きたくなる図書館」を目指します。

2 取組内容

①資料の収集と提供

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
1	市民との会話や図書の利用状況、社会、地域の動向を踏まえ、「暮らし」と「仕事」と「地域」に役立つ多様な図書を収集します。	継続	実施			
2	図書や情報を探している利用者に積極的に声かけをし、丁寧な対応を行います。	継続	実施			
3	利用者が自分で本を探せるように、館内図、書棚表示を見直し、わかりやすい表示にします。	継続	実施			
4	市民の興味・関心を刺激し広げるように、テーマ展示や情報提供を定期的に行い、新たな本に出合う機会や本の魅力を伝える機会をつくります。	継続	実施			
5	図書館ウェブサイトで本や資料の情報を発信します。	継続	実施			
6	活字が読みにくい方も読書を楽しめるように、録音図書を、必要とする方に届くよう広報します。	継続	実施			
7	いつでもどこでも使える図書館として、市町村と県の協働電子図書館「デジとしょ信州」を広報します。	継続	実施			

②気軽に立ち寄れる場所、居心地の良い場所になるための取組【重点取組】

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
8	気軽に来館できる場所、居心地の良い場所になるための環境づくりに取り組みます。	新規	検討・準備		試行	
9	図書館を知るための機会を設けます。 バックヤード見学 お仕事見学など	継続	検討・準備		実施	

③調べもの支援（レファレンス）の強化と周知【重点取組】

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
10	調べもの案内コーナーを利用者が話をしやすい環境に整え、丁寧な対応を行います。	新規	整備	実施		
11	仕事上の調べものや課題の解決に図書館が利用されるように、ビジネス支援の関係部署と連携をとりながら本の紹介やサービス案内を行います。	継続		実施		
12	レファレンス事例の蓄積を進め、定期的に公開していきます。	新規	準備	蓄積実施	公開実施	
13	展示等でレファレンスサービスを紹介します。	新規		実施		
14	図書館を使った情報の探し方講座を行います。	継続	計画	実施		
15	職員の情報探索力の向上を図るため、研修を実施します。	継続		実施		

④郷土資料の蓄積・活用

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
16	地域の記録である郷土資料は、次世代へ引き継ぐべき市民の大切な財産として、収集・保存・提供します。	継続		実施		
17	地域の歴史や文化に多くの人が関心をもてるように、関係機関と連携し、郷土資料の紹介展示を行います。	継続		実施		
18	図書リストの活用やウェブサイト・SNSを通じ、郷土資料の情報を発信します。	継続		実施		
19	郷土新聞や郷土の音声資料、劣化の激しい郷土図書のデジタル化を計画的に進めます。	継続		実施		

⑤資料の保存

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
20	スペースの有効活用を図るため、分野別保存基準を見直し、保存すべき資料の精査を進めます。	継続		見直し実施		
					精査実施	
21	資料の収蔵場所の確保に向けて、他の社会教育機関と連携しながら検討を進めます。	新規	実施			

Ⅱ 学び合いにより人と人とがつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

市民の皆さんが読書や学び・活動の場へ参加し交流することで、人と人とのつながりができ、学びが深まり、さらなる活動への意欲や関心が生まれるよう支援します。

1 現状の評価・今後の方向性

本を通しての交流や学び合いは、人と人とのつながりをつくり、読書の輪を広げます。かつて飯田市には読書会が多数あり、読書会や図書館を拠点とした市民の学び合いと実践が飯田市の読書文化を支えてきました。市民の皆さんと図書館と一緒に学び歩んできたことが飯田市立図書館の読書活動推進の特徴です。

これまで、読書会交流会や文学講座、本を通して語り合う催しなどを行ってきました。読書会の数は減っていますが、本について語り合う場は広い世代に求められており、今後も継続して行う必要があります。

令和7年に迎える中央図書館開館110周年を契機に、図書館と市民の皆さんとのつながりを深め、「図書館に行きたくなる」、「読みたくなる」、「やってみたくなる」活動を市民の皆さんと一緒に考え実施し、主体的な市民活動への意欲や関心にもつながるように取り組んでいきます。

また、地域の歴史や文化の記録である郷土資料から多くの人が地域の価値を学び、次世代へ継承していくためにも学び合いの機会提供が必要です。これまでは、伊那谷地名研究会と地名を調べる講座や、中学生と大人と一緒に地域を学ぶ「鼎ナゾとき探偵団」、郷土資料を活用して地域の情報を発信する「WikipediaTown in 飯田」などを行ってきました。今後も継続して、郷土資料を活用した学び合いの場をつくっていきます。

2 取組内容

① 市民と協働した中央図書館開館110周年記念事業 【重点取組】

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
22	実行委員会の企画・運営による中央図書館開館110周年記念事業を行います。	新規				
23	中央図書館開館110周年をきっかけに、図書館に集う市民が交流を深め、主体的な市民活動につながるよう取り組みます。	新規				

② 読書を通した学び合い・交流の場づくり 【重点取組】

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
24	本を紹介し合ったり語り合ったりする機会をつくりま	継続				
す。						

25	郷土資料を活用し、調べる体験を通して学習交流する機会をつくれます。	継続	実施
26	市民や研究団体等と共に、学び合い交流する場をつくれます。また、読書会など読書に関する主体的な活動を応援していきます。	継続	実施
27	文学講座を行い、文学に触れる機会を提供します。	継続	実施

Ⅲ こどもの読書活動を推進します

こどもたちが読書の楽しさを体験し、知ることや学ぶことの楽しさを知り、自分で考える力、課題を解決する力を培うことができるよう、関係機関と連携し、発達段階に応じた読書活動の推進を行います。

小学生の自発的な読書に向けて、読んでもらう読書から自分で文字だけの本を読む読書への移行時のつまずき解消、読みごたえのある本を読む意欲を育むための取組を行います。

1 現状の評価・今後の方向性

本を読むことにより、こどもは言葉や感性を豊かにし、想像力を広げ、深い思考力を育むことができます。また、読書を通じて、多様な考え方に触れたり、様々な知識を得たりすることは、表現力や自分で考える力を養い、自らの人生を切り開いていく「生きる力」の獲得につながります。

第4次サービス計画では、全てのこどもが幼少期に絵本や物語の楽しさを知る機会を持つことを目指して、4歳児へのセカンドブックプレゼント「おともだち絵本」の開始と、保育所等を通じた家庭への絵本の貸出を推進しました。絵本プレゼントについてのアンケート結果や保育所からの聞き取り調査から、絵本を楽しむ家庭が増加していることがわかりました。一方で、乳幼児保護者からは、こども連れの図書館利用を躊躇する意見もあり、こどもと保護者が図書館を利用しやすく、快適に過ごすことのできる環境づくりが求められています。

コロナ禍を経て急速に進んだデジタル社会の到来によりこどもの生活が大きく変わりました。生活の中でSNSや動画にふれる時間が増加し、読書時間が減っている現状があります。こどもたちが読書を楽しめると思う体験を重ねたり、幅広い知識を得る喜びを感じたりすることで、本を読む意欲を持ち自発的に読書をするように、学校図書館と連携して取組を行います。

電子書籍も普及し始めていますが、幼いこどもにとって、紙の本で読んでもらうことは読書を実体験として感じるすることができます。自分で本を読み始めたこどもにとっても、紙の本は1冊を読み通す充実感が得られるとともに、知識の本では全体を見渡して論理的に考えることができます。そのため、飯田市立図書館では、幼児期から小学校低学年の読書については、保護者や保育士、教師、司書らが介在して、紙の本を手渡していくことを大切に考えていきます。

また、全市の各機関が連携・協力して取組を進められるよう「飯田市こども読書活動推進計画」

を策定します。

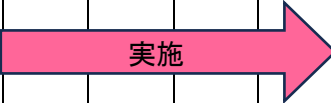
駅前図書館では、高校生が読書や図書館に親しんだり、様々な本との出会いや交流によって興味・関心を広げたりすることを目指して、本の紹介展示や事業を行ってきました。高校生が様々な分野の本を見るようになったり、イベントに自ら参加したりする姿が見られるようになりました。今後も継続して高校生のニーズを把握し、本との出会いや交流の場となることを目指します。

2 取組内容

① 乳幼児：絵本や物語の楽しさと親子のふれあいを体験する機会の充実

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
28	はじめまして絵本事業により7カ月の乳児に絵本をプレゼントし、親子で絵本を楽しみ、心を通わせる時間を持つことを働きかけます。	継続	実施			
29	2歳児相談や乳幼児学級、つどいの広場等で、親子で絵本やわらべうたを楽しむことを働きかけます。	継続	実施			
30	4歳児（年中児）へのセカンドブックプレゼント「おともだち絵本」や、保育所等での読みきかせを通じて絵本や物語の楽しさを体験する機会を充実させます。	継続	実施			
31	保育所等を通じて家庭への絵本の貸出を実施し、家庭で本を楽しむ機会を作ります。	継続	実施			

② 小中学生：本を読むことや知識を得ることを楽しいと感じ、自発的に読む意欲を持つための取組【重点取組】

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
32	「こども読書手帳おはなしぼうけんたい」や「よむリスビンゴ」などを活用し、学校図書館と連携して、おすすめ本リストの本を継続して読む働きかけをします。	継続				
						
33	読書を通じた交流や、図書館に親しむ機会を、小中学校図書館と連携して作ります。	新規				
						
34	たねの会等関係機関と連携した企画や、調べることを楽しむ企画を行い、好奇心が刺激され、興味や関心が広がる本との出会いの機会を作ります。	継続				
						

③ 学校図書館との連携

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
35	団体貸出やレファレンス等により、学校図書館活動を支援します。	継続	実施			
36	合同研修会や情報交換を行い、小中学生への読書推進に生かします。	継続	実施			

④ 高校生の読書推進

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
37	紹介本の展示などにより、好奇心が刺激され興味関心が広がるような本との出会いの機会をつくります。	継続	実施			
38	駅前図書館を拠点として、読書や図書館に親しみ、交流する企画を計画・実施します。	継続	実施			
39	来館した人の本や情報の求めに丁寧に応えることで、図書館の有用性や利便性を伝えます。	継続	実施			

⑤ こどもと一緒にいきたい図書館

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
40	「図書館こどもタイム」を実施し、こどもとその保護者が図書館を利用しやすいと思えるようにします。	新規	準備	実施		

⑥ 読書推進の体制づくり

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
41	こどもに関わる様々な立場の市民や関係機関と協働で「飯田市こども読書活動推進計画」を策定し、連携してこどもの読書活動を推進する体制を作ります。	新規				
42	こどもの本や読書に関する講座の開催や、読みきかせボランティア等の活動支援を行います。	継続				

IV 身近に使える分館の充実を図ります

誰もが気軽に立ち寄ることができる「私の図書館」をもち、本に親しみ、交流できる居場所となることを目指します。

1 現状の評価・今後の方向性

飯田市では、市内のどこに住んでいても図書館サービスを受けることができるよう、市内各地区に 16 分館 1 分室を配置しています。

各地区の分館のはじまりは多くが、青年たちが読書により学び、その学びを生活や地域の暮らしに役立てたい、という思いから青年会文庫を発足させたことによるものです。現在は図書館の全域サービスのための欠かせない存在となっており、全館が協力して市内全域へのサービスを行っています。

地域に根差した分館は、地区の特性や実情に合わせた運営を行っており、公民館をはじめ、保育所や学校、各種施設と連携したサービスを提供しています。地区の図書館として親しまれている一方で、コロナ禍の影響を大きく受け、感染症対策が緩和された現在でも、以前の利用状況には戻っていません。また、アンケート結果から、分館の存在や、読みたい本を中央図書館などから取り寄せて借りられるサービスなどが知られていない現状があり、有効な P R が課題です。

これからも分館は、地区内の人と人とのつながりを大事にして各施設との連携を深め、地域の読書を推進します。そして、本を借りるだけの場所ではなく、来館される方一人一人を大切に、地域の誰もが気軽に立ち寄ることができる“居場所”であることを運営の柱のひとつとして、全域サービスに取り組んでいきます。

2 取組内容

①各地区の特色を活かした分館の運営

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
43	地区の特色を反映した蔵書構成とコーナーの整備を進めます。	継続	実施			
44	来館者とのコミュニケーションを大事にし、何でも気軽に話せる心地よい場所であることを目指します。	継続	実施			

②地区内の各種施設や関係機関との連携の強化

取組内容			年度別計画表			
			R7	R8	R9	R10
45	地区や公民館等と連携した事業を実施します。	継続	実施			
46	乳幼児学級等での貸出や読みきかせを通じて乳幼児期からの親子読書と図書館利用の呼びかけを行います。	継続	実施			
47	保育園等への団体貸出や読みきかせ、「おともだち絵本」への参加を通じて、家庭へ絵本を届ける取組と図書館利用の呼びかけを行います。	継続	実施			

Ⅵ 第5次飯田市立図書館サービス計画 取組別進捗状況確認指標

取組	指標		現状 (R5)	目標値 (R10)	備考
Ⅰ 図書・資料・情報提供を充実させます	貸出利用者数（延べ人数）（人）		190,822	190,000	全館（分館含む）
	レファレンス数（件）		2,593	2,600	中央・駅前・鼎・上郷
	飯田市立図書館ウェブサイトの閲覧数（件）		175,702	250,000	年間総アクセス数
	郷土資料の貸出冊数（冊）		5,940	6,000	中央・駅前・鼎・上郷
Ⅱ 学び合いにより人と人のつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます	講座・企画等開催数（件）		31	32	中央・駅前・鼎・上郷
	講座・企画等参加者数（人）		1,159	1,200	中央・駅前・鼎・上郷
Ⅲ こどもの読書活動を推進します	はじめまして絵本【7ヶ月児】絵本プレゼント受取割合（％）		99.7	100	絵本を受け取った人数／対象者数
	おともだち絵本【4歳児】絵本プレゼント受取割合（％）		100	100	絵本を受け取った人数／対象者数
	絵本を家庭へ持ち帰っている保育所数（園）		29	35	保育所への団体貸出や分館貸出、保育所の蔵書を通じて定期的に家庭へ本を持ち帰っている保育所数
	おもしろいと思う本に出会えた児童生徒の割合（％）	小6	(R6) 75.6	現状値 以上	飯田市児童・生徒読書調査 調査年度に、「おもしろい」「感動した」「夢中になった」と思う本に出会えた児童・生徒の割合
		中3	(R6) 71.1		
	日常的に読書を行っている児童生徒の割合（％）	小6	(R6) 41.7	現状値 以上	飯田市児童・生徒読書調査 授業以外で1週間に30分以上読書をしている割合
		中3	(R6) 37.7		
Ⅳ 身近に使える分館の充実を図ります	【分館】住民一人当たりの貸出冊数（冊）		1.6	1.6	分館貸出冊数／地区人口

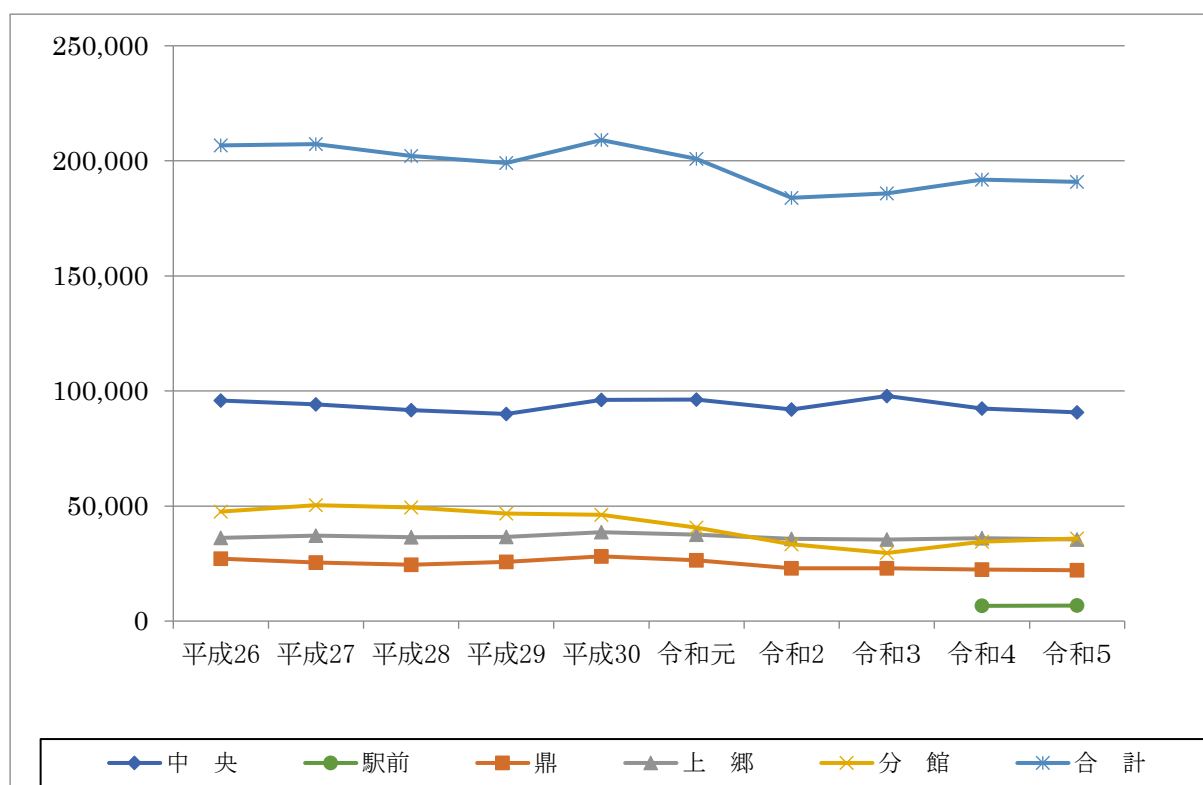
資料編

1 第4次飯田市立図書館サービス計画 取組別成果指標

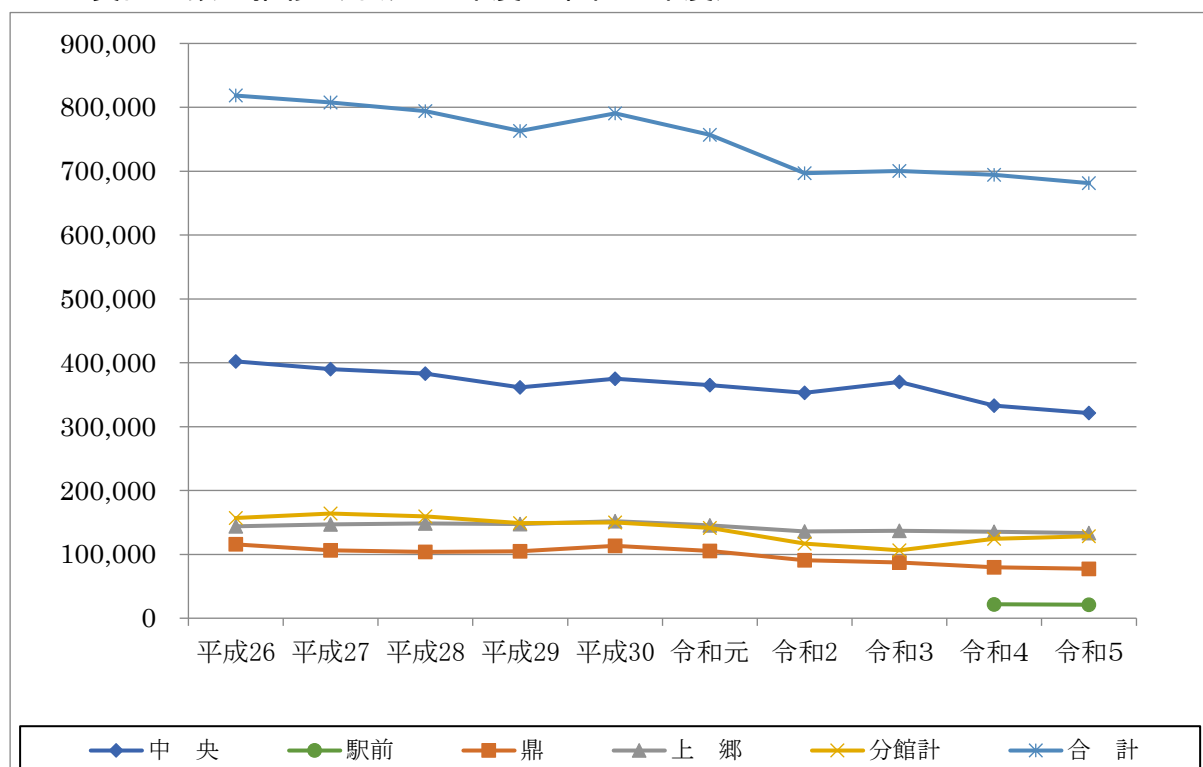
取組	指標	R 元年度	目標値 (R6)	R3 年度	R4 年度	R5 年度	備考
1 図書・資料・ 情報提供を 充実させま す	貸出利用者数 (延べ人数) (人)	200,825	201,000	183,936	191,873	190,822	全館 (分館含む)
	予約数 (冊)	60,817	61,000	67,214	67,378	67,056	全館 (分館含む)
	レファレンス数 (件)	2,964	3,000	2,259	2,336	2,593	中央・駅前・鼎・上郷
2 子どもの読 書活動を推 進します	はじめまして絵本 【7ヶ月児】絵本プレゼント 受取割合(%)	97.7	100	99.6	99.1	99.2	絵本を受け取った 人数/対象者数
	【4歳児】絵本プレゼント 受取割合 (%)	—	100	100	100	100	絵本を受け取った 人数/対象者数
	絵本を家庭へ持ち帰って いる保育所数 (園)	19	26	28	30	29	保育所への団体貸 出や分館貸出、保 育所の蔵書を通じ て定期的に家庭へ 本を持ち帰ってい る保育所数
	日常的に読書 を行っている 子どもの割合 ※ (%)	小 6 67.1 中 3 55.6	県平均 以上	63.6 60.2	60.6 53.8	58.3 51.2	全国学力・学習状 況調査結果 R1 県平均 小学 6 年生 69.0 中学 3 年生 57.1
3 身近に使える 図書館の 充実を図り ます	【分館】住民一人当たりの 貸出冊数 (冊)	1.8	1.9	1.3	1.6	1.6	分館・貸出冊数/ 地区人口
	16歳～29歳の貸出利用者 数 (延べ人数) (人)	10,038	10,500	9,617	9,308	8,730	中央・駅前・鼎・上郷
4 学び合いに より人と人 が っ な が り、読書や 学びが広がる 場づくりに 取り組ま す	講座・企画等開催数 (件)	23	25	12	24	31	中央・駅前・鼎・上郷
	講座・企画等参加者数 (人)	1,241	1,300	441	593	1,159	中央・駅前・鼎・上郷
5 地域の歴史 と文化の記 録を蓄積 し、提供し ます	郷土資料の情報発信数 (回)	145	150	70	67	168	館内外展示・リス ト配布、HP 本の紹 介・図書リスト掲 載、SNS 発信
	郷土資料の貸出冊数 (冊)	6,770	6,800	6,216	5,791	5,940	中央・駅前・鼎・上郷

※全国学力・学習状況調査 設問「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書
をしますか(教科書、漫画を除く)」に対し、回答 10 分以上～2 時間以上の子どもの割合

2-1 貸出利用者数の推移（平成 26 年度～令和 5 年度）



2-2 貸出冊数の推移（平成 26 年度～令和 5 年度）



3 令和5年度 飯田市立図書館アンケート調査結果の概要

1 調査概要

- ・調査時期：令和5年7月～12月
- ・調査対象：中学生（13歳）以上
- ・調査方法
 - ①来館者：中央・鼎・上郷・駅前図書館及び分館内で配布、回収
 - ②非来館者：抽出した団体等に依頼、アンケート用紙もしくはインターネットフォームにて回答

2 回収結果

- ・回答者数：2,267人
- ・有効回答者数：2,263人（うち飯田市の図書館利用者：1,339人 図書館未利用者：924人）

3 調査結果の概要

＊詳細は飯田市立図書館ウェブサイト掲載「令和5年度図書館アンケート結果報告書」参照

【回答者】

- ・回答者は30～40代の女性が多く、約30%を占める。中高生からは568人（25%）の回答があった。

【不読者】

- ・アンケート回答者のうち本を「読まない」と回答した方は310人。16～29歳が不読率が高い。

【自発的な読書】

- ・読書量が多い方が自発的に本を読むようになった年代は、小学生期が最も多く、次いで幼少期。
- ・自発的な読書のきっかけ（自由記入）は、身近に本があった・おもしろい本に出会った等が多い。学校図書館や先生、司書、家族等の読みきかせなど、人に勧められたり読んでもらったりした場合も多い。

【図書館利用者 サービスの満足度について】

- ・予約や調査相談については利用者の7割ほどが満足している一方、使い方が分からない、サービス自体を知らない方もいる。ホームページの機能や障がい者サービス、大人向け講座等について、すでに行っているサービスを要望するようなご意見もあり、サービスの周知が課題である。
- ・総合的満足度は、満足またはやや満足を合わせると86.8%であった。

【図書館未利用者】

- ・利用しない理由は、ほとんどの年代で「図書館に行く目的（必要）がない」が上位となっており、「本は読まない」との記入も見られた。各年代に応じた利用推進や読書推進の取り組みが必要である。

- ・自由記入欄では「こどもが騒ぎそうで行きづらい」という意見が複数みられた。

【今後、重点として取り組んでほしいこと】

- ・回答者の 52.7%が「本や資料の充実」、22.4%が「くらしや仕事に関する情報提供」を希望している。
- ・新刊本や新しい情報、専門性の高い資料を求める意見とともに、本が探しづらいという意見もあり、市民のニーズに沿った蔵書の充実と、求めている本を的確に手渡していく方策が必要である。

【その他】

- ・図書館に対して「心のよりどころ」「子育ての場としてなくてはならない場所」「大事な学びの場」などの思いを書いてくださった方もいた。

4 飯田市全域への図書館サービスの体制

